

常任委員会

定例会2日目(6月13日)に提案・付託された請願第1号・白川中学校の存続に関する請願について、6月16日の常任委員会にて審査を行いました。

委員会では、紹介議員と提出者から請願の趣旨等の説明、教育委員会から小中学校の統廃合に係る考え等の説明を受け、それぞれ質疑を行いました。質疑終了後、討論(反対)が行われ、採決の結果、賛成者少数で不採択となりました。審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

厚生文教常任委員会

- 委員長 山田 裕一
- 副委員長 松野 久郎
- 委員 佐藤龍彦・伊藤勝美

- 沼倉啓介・平間知一
- 佐久間儀郎・大町栄信
- 佐藤秀行

◎白川中学校の存続に関する請願

教育委員会は、平成30年4月1日に斎川小学校を白石第二小学校へ、平成31年4月1日に白川中学校を東中学校へ、南中学校を白石中学校へそれぞれ統合する方針を示しています。

その方針に対し、「白川の子供と教育を考える会」が計1千344名の署名を集め、白川中学校の存続を求めて請願を提出したものです。

●紹介議員と提出者への質疑

〔質疑〕請願の署名者には、白川地区以外の方もいる。この請願には、学校を地域のコミュニティとして残すことが書かれているが、それが目的なのか、子どもたちのことを考えてのことなのか伺う。
〔答弁〕一番は、子どものことと考えてのことである。白川中学校は、伝統ある学校である。今回の署名は、仕

事で市外に出ている方たちが、地域の核をなくしたところに帰ってきたときの気持ちを考え、統廃合をこのまま進めていいのかという思いで署名していただいている。

〔質疑〕この請願を出した背景には、子どもの現在の数、将来の数だけでなく、白川地区の将来も見据えた考えも含まれているのか伺う。

〔答弁〕その考えも含まれている。将来、白川に戻りたいと考えている方も多く、地区に中学校がないと戻りづらいこともあげられる。

この統廃合は、市にとっても人口を増やすためにはマイナスになると考える。

〔質疑〕子どもたちは、これからどんどん成長していく。中学校では、いろいろな判断や刺激を受ける必要がある。そのため、ある程度の生徒数の規模は必要と考えるが、地域のことを考えて、小規模という考えに至ったのか伺う。

〔答弁〕学校が地域の住民、子どもたちを育てていく。そこに環境も一緒になった教育

があると考ええる。白川地区は、小規模校だからこそ心が通じ合える学校である。

学校がなくなることは地域にとっても問題である。どのような理由で学校の統廃合に賛成したのか、将来の子どもたちに説明できるように、しっかりと教育委員会には説明をしてもらいたい。

●教育委員会への質疑

〔質疑〕白石市小中学校の在り方検討委員会での検討は、学校統廃合を前提に進めたのか、学校を残すことを前提に進めたのか伺う。

〔答弁〕検討委員会では、残すことを前提に検討した。これまで統廃合をしてこなかったのは、県内では白石市だけと考える。教育委員会としては、統廃合をしないで学校は存続させたいと考えてきたが、子どもの数が、ここ数年激減している。

検討委員会では、本当に子どもの教育活動ができるのかという点から検討した結果、『中学校ではクラス替えができること』『小学校では複式

学級にならないこと』が必要であるとの結論となった。

〔質疑〕白川地区は、宅地化が可能な土地や駅、そして自然環境があり、人口を増やせる資源を持つ地域でもある。その進展の鍵となる学校をなくすことは、根本的に人口増問題から手を引いてしまうのではないか。

このことが、今回の署名の数に表されているのではないかと。地域の方に真摯な説明が必要と考えるがいかがか。

〔答弁〕白川地区には人口増の可能性はあると考える。これまでも方々も努力し、人口を増やそうとしてきたとは考えるが、そのうえで現在の人口であり、子どもの数である。

学校を残したいのは誰でもが思うことであるが、子どもの数は減少している。

このまま先送りすることで子どもたちへの影響が大きくなってしまふ。

白川地区の方々に対して、真摯に説明することは必要と考えるが、統廃合は進めさせていきたい。